

## 平成 29 年度みきっ子未来応援協議会 家庭・地域・学校教育部会議事録

### 1 期 日

平成 30 年 1 月 23 日（火） 19:00～20:30

### 2 場 所

三木市役所 5 階大会議室

### 3 出席者

#### (1) 委 員

西馬英雄部会長、門廣文副部会長、田上由雄委員、西垣幸子委員、岡田保委員、長尾恵猛委員、藤井宏委員、長谷川智世委員、岡本典子委員、丸畑護委員（欠席：西山農委員）

#### (2) 事務局

岩崎こども未来部参与、横田学校教育課長、生田学校教育課特命課長、高谷青少年センター所長、坂田学校教育課副課長、阿部学校教育課主査、中井市民協働課長、岩瀬市民協働課主査、山城子どもいじめ防止センター長

### 4 開会あいさつ（岩崎こども未来部参与）

### 5 部会長・副部会長紹介

西馬英雄部会長、門廣文副部会長

### 6 委員自己紹介

### 7 協議事項

家庭・地域・学校が一体となった人づくりに関すること

#### (1) 事例及び現状

- ・小中学生の学習習慣・生活習慣について
- ・青少年の健全育成に係る取組状況について
- ・学校・家庭・地域の連携協力推進事業の実施状況について

## (2) 意見交換

部会長：さきほど、事務局より説明のあった活動についてのご質問やご意見をお願いします。

委員：高校生の孫がよくスマホゲームをしている。使い方のことで、最初は夜10時までと決めていたが、なしくずしになってしまった。寝室に持ち込んで遅くまでしているようなので少し心配している。近隣の子ども達には、朝あいさつをすると、元気な声であいさつをしてくれる中高生が多い。

委員：高校も地域連携を進めている。緑が丘や青山での地域行事やボランティア活動等に積極的に参加している。さらに、充実した取組になるようにするためには、今後どのように統括コーディネーターを活用したらよいか。また、青少年センターでの補導件数や内容を教えて欲しい。

事務局：まだ、地域と学校をつなぐところまでは進んでいないが、高校を含めてどのような展開が考えられるか検討していく。  
青少年センターについては、毎週、夜に巡回している。悪質な事案は警察に連絡し対応してもらっている。高校生のネット見守りについては、注意すべき内容は各学校へ情報提供し、注意してもらっている。

委員：学校が地域との関わりを進めてくださることに感謝している。  
垣根隊の活動数はどのようになっているか。

事務局：垣根隊の趣旨は、自分のできる範囲や時間での活動をしていただくというものである。登録されたすべての方が、毎日、決まった時間に活動しているのではない。

委員：インターネットの関連事業とは、具体的にどういうことか。  
ネット見守り隊とは、どこでどんな活動を行っているか。

事務局：ネット見守り隊は、インターネットの専門家に委託して行っている事業である。学校での様子や顔写真をWebに投稿したり、友達の悪口を書き込んだりしていないかチェックしている。問題があ

る投稿を見つけた場合は、学校を通じて本人に注意をしてもらっている。最近では動画を投稿して問題になることが増えているので、北播磨5市1町が協同してネットでの見守りを行っており、他市との情報交換も行いながら進めている。

委員：子ども達は、垣根隊によく挨拶をしてくれる。垣根隊を増やすため宣伝や広報活動をもっとして欲しい。防犯協会が行っているパトロール活動にも今後、参加していくつもりである。

委員：それぞれの立場で、自分ができることをやっていくのがよいと感じる。登下校の見守り活動を行っているが、忘れ物をしてくる子どもが多い。家庭への支援が必要だと感じている。

部会長：高校では、ネットの使い方（情報モラル）についてどのような取組をしているか。

委員：高校でも、県警サイバーと連携して行っている。また、情報の授業の中でも指導をしている。市内の高校では、学校への持ち込みは、原則禁止している。

部会長：家庭、地域、学校がそれぞれの立場でできることや大切にしていること、また、どのような役割を担っていけばよいかなどについて、意見や提言を出していただきたい。

委員：朝食の準備等、家庭への支援を垣根隊のメンバーが個人的に行っている場合もある。個人での対応には、限界があると感じる。また、集団登校できない子どもに対して学校からの指導を期待したい。垣根隊との情報交換会の際に、情報を学校には伝えている。

部会長：情報交換会は年間1回であるので、気がつかれた時に、学校に連絡していただきたい。

委員：子どもの登下校の不安があるが、垣根隊の方のおかげで不安が解消できている。垣根隊の方には、とても感謝している。

委員：垣根隊の活動をしていて子どもに注意をすると、逆に苦情を言わ

れたことがあった。周囲に理解されていないことが、悲しいと感じる。

委員：学習支援活動は、地域の方や大学生を想定しているようだが、高校生でもできることはあると感じる。例えば、高校生が部活の指導の補助を行うことも可能であると思う。県内の他地域では、高校生が小中学校へ指導に行っている地域もある。

事務局：学習支援については、小学校中学校を対象にしていたが、高校へは相談に伺い、検討していきたい。

委員：時間を守る、あいさつをすることを重視している。こちらから積極的にあいさつするように心がけている。

委員：あいさつは、とても大事だと思う。子どもたちには、こちらから積極的にあいさつをしている。子どもたちも、それに応えてあいさつをしてくれる。

委員：三木市歌を知らない方が多い。特に大人。教育委員会でも取り組んでほしい。

事務局：小学生の連合音楽会で歌っている。それに向けて各校で指導を行っている。また、成人式でも三木市歌を歌っている。大人の方への取組は他課とも調整していきたい。

委員：三木市出身の大学生は、地元三木で教師になりたいと思っている。それは、三木の教育が素晴らしいということなので、これまでの実践に自信を持っていいと思う。地域、学校、教育委員会の連携がしっかりできているので、取組は進んできているように感じる。大学生は、授業中でもスマホを触っているので、三木市のように、子どもの時から正しい知識や使い方を指導していくべきだと感じる。大学生や高校生等、若い世代が子ども達に伝えていくことが効果的だと思う。「みきっ子家庭学習ガイド」にあるように、「ほめてのばす。」ことは重要。良かったことは、すぐに具体的に伝える。褒められると愛着が形成され、自分に自信が持て、自尊感情も高まる。親は、子どもの近くにいるので欠点が見えがちで

あるが、考え方を転換することが大切である。子どもは成長する過程で、親の期待を裏切ったり、反抗したりすることもあるものだと考え、大人が余裕をもって接する事が必要である。子どもが将来、三木に戻りたいと思えるような教育を期待している。

## 8 閉会あいさつ（副部会長）